



まちの話題



税に関する標語・作文を表彰

毎年11月11日から17日に定められている「税を考える週間」にちなんで募集された、税に関する標語、作文の表彰式が、11月18日に西原町役場議事堂で開催されました。この募集は、税の意義や役割、仕組みや目的などを考え、理解することを目的として実施されたものです。

小学生の標語部門で金城杏菜さん（西原南小6年）が、中学生の作文部門で金城真紀さん（琉大附属中3年）が西原町長賞に輝くなど、小学生中学生それぞれ11名に各賞が贈られました。



表彰式の様子

英語で熱演！ 西原町英語フェスティバル開催

日頃学んでいる英語を活用し、英語でスピーチやスキット（寸劇）を披露する「平成26年度西原町小中学校英語フェスティバル」（町教育委員会主催）が、11月10日にさわふじ未来ホールで開催されました。



これまで、中学生を対象にしたストーリーや寸劇のコンテストとして行われていましたが、今回は初めて、小学生が出場しました。シエスタ アユシさん（西原東小3年）が英語のスピーチを披露したほか、西原東小から1組、西原中から2組、西原東中から3組が出場して寸劇を演じました。演じられた劇は児童生徒が自分たちで創作したもので、きれいな英語の発音で堂々と演じました。

西原高校が40周年！式典などの記念行事を開催

県立西原高校が今年で40周年を迎えたことを記念して、西原高等学校創立40周年記念式典・祝賀会（同事業期成会主催）が、11月15日に同校で開催されました。

記念式典には在校生や父母のほか多くの卒業生が駆けつけ、節目を祝いました。式辞で玉城哲也校長が「40年という輝かしい歴史の中で、多くの卒業生が各方面で活躍している。在校生は先輩に続けという気迫で歩んでほしい。母校に誇りを持ち、一層勉学や部活動などに励み、



社会に旅立つことを願う」とあいさつしました。

また、在校生と父母で結成された合同合唱団が、この日のために練習を重ねた創立40周年讃歌を披露しました。

午後は各教室で、卒業生の先輩から仕事や社会のことについて学ぶ職業人講話が実施されました。この講話には警察官、教員、会社経営者やアーティスト、シェフなどさまざまな職に就いている29名の卒業生が協力しました。

在校生は事前の希望に沿って各職業の講話に分かれ、仕事のことや学生時代の過ごし方など、さまざまな話に耳を傾けました。



職業人講話の様子



乾燥の季節に火の用心！

平成26年度秋季火災予防運動の一環として、防火イベント（東部消防組合消防本部主催）が、11月15日にマリンプラザ東浜（与那原町）で開催されました。イベントでは一日消防長に任命されたタレントのいずみ&やよいさんが司会を務めました。

東部消防組合管理者の城間俊安南風原町長は「秋から冬にかけて空気が乾燥するシーズンには火災の懸念が増す。家庭や隣近所みんなで火災予防に取り組もう」と呼びかけました。

また救助展示訓練として、腕の力だけでロープをよじ登る訓練が披露されました。日頃から訓練を重ねた消防士の力強い動きを目のあたりにし、見学者から歓声が上がりました。



中部市町村の職員が 西原のまちづくりを提言

中部市町村の市町村職員の人材育成を目的に行われている「ゆがふ塾」（中部広域市町村圏事務組合主催）の最終報告会が、11月14日に西原町中央公民館で開催されました。

同事業では、中部市町村の職員が西原町をテーマに地域の課題などを研究。まちづくりに関する提案を行う形で最終報告が行われました。

報告に先立って、上間明町長から西原町のまちづくりに関する基調講演が行われました。報告では3グループに分かれて発表が行われ、それぞれが観光、高齢者福祉、産学官連携をテーマにした提案を発表しました。



報告に先立って、上間明町長から西原町のまちづくりに関する基調講演が行われました。報告では3グループに分かれて発表が行われ、それぞれが観光、高齢者福祉、産学官連携をテーマにした提案を発表しました。

小学生女子サッカーの大会で優勝

9月に開催された2014沖縄ガールズ・エイト（U-12）サッカー大会沖縄県大会で、新垣桜さん、小橋川結香さん、國吉未来さん、仲原瞳空さん、照屋璃々さん（すべて西原東小6年）が女子サッカーチーム、南中頭ガールズの選手として出場。見事に優勝しました。この結果、11月に宮崎県で開催されたガールズ・エイト（U-12）サッカーフェスティバルに出場しました。



南中頭ガールズのメンバーとして優勝したみなさん

介護の日イベントを開催

介護の理解を深めるための講演や展示を行うイベントの「西原町介護の日イベント」（同実行委員会主催）が、11月13日に西原町保健センターで開催されました。イベントには西原町包括支援センターをはじめ、町内の在宅・入所介護施設の関係者などが参加しました。

意見発表では「介護社会へ望むこと」と題し、宮平武さんが介護を受ける当事者として抱える気持ちや社会生活での不都合などを説明。「障がい者や要介護者の気持ちを考え、支援にどう反映させるかを考えてほしい」と訴えました。

いいあんべ家で運動指導を行っている伊野波盛邦さんは介護予防に役立つ体操を指導。参加者は座りながらできる体操を体験しました。

また、言語聴覚士の山地純さんが「口から食べ続けるには」というテーマで講演をしました。山地さんは老化などが

原因で起こる誤嚥について「食べたものが正常に食道へ行かず、気管に入ってしまうと、細菌などが侵入して誤嚥性肺炎を引き起こす」と説明。誤嚥性肺炎の予防手段として、首やあごの体操の仕方などを伝えました。



参加者全員で介護予防体操に挑戦